

『家康逃走路(京田辺西)と周辺史跡に行く』

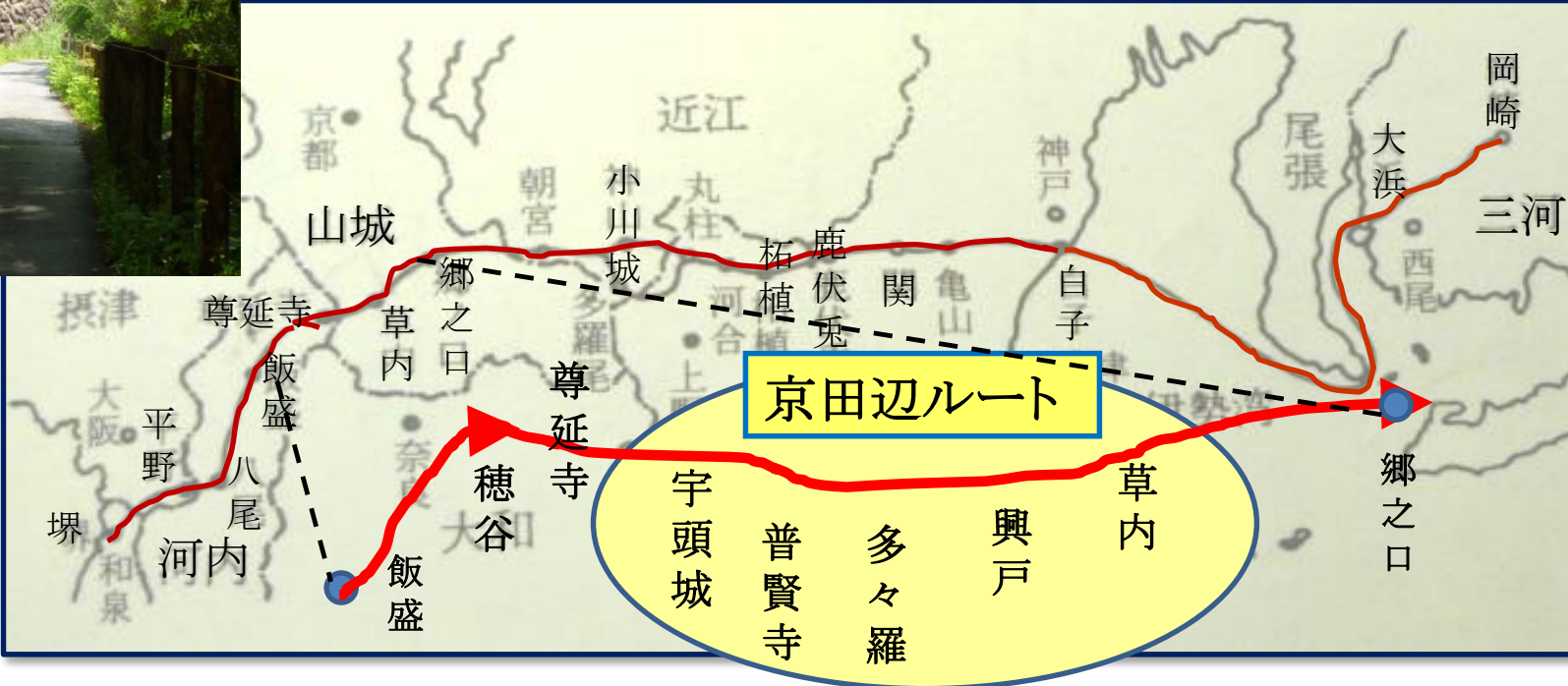
(若冲屋敷跡、近衛基通の墓、田宮の館、古民家)

- 本能寺の変 天正10(1582)年6月2日 早朝 光秀 : 謀反を起こす
 信長 : 本能寺に宿泊中に襲われ、四十九年の人生を終える
 家康 : 上方遊覧が終わり、御礼をするため、堺の妙國寺を発ち京都へ向かう
 河内飯盛山西麓付近(四條畷 旧住吉神社)でこの変を知る
- 「神君伊賀越え」家康一行: 三日間の逃走、苦難の道中、襲撃、協力者・道案内人
 飯盛～倉治～穂谷・尊延寺～京田辺～宇治田原(郷之口)～信楽～伊賀～白子～岡崎



宇頭城

※京田辺の謎: 逃走路宇頭城、案内人のご褒美、梅雪の逃走コース、...



主な出来事・経過

月日	時刻	出来事	通過場所	
6/2	4時	本能寺の変が起こる		
		家康、信長に上方遊覧の御礼に京都へ向かう	堺、平野、八尾	
	12時	茶屋四郎、本多忠勝に「信長自刃」を報告	交野	
	14時	忠勝、家康に変を伝える	飯盛山西麓(南野)	旧住吉神社
	16時	三河に帰ることを決め出発 ※伊賀ルート選択(服部半蔵)		茶屋:銀子 本多:蜻蛉切り槍
		長谷川秀一:恩顧者に連絡、道案内を依頼	星田、倉治	宇治田原、信楽
	20時 ～	山中道に迷い、普賢寺の百姓新八と出会う 穂谷の白井家で休息・仮寝	穂谷、尊延寺	家康身分を明かす
6/3	～ 7時	新八と穂谷百姓忍兵衛の案内を受け 草内(くさじ)の渡しまで	宇頭城、普賢寺、 多々羅、興戸、 草内渡し場	家康から 証文を授かる
	8時	飯岡 小山太郎左衛門政清らに助けられ、 木津川を舟で渡る	木津川 (増水中)	九寸七首を授かる
	10時	山口城から新主膳正末景、市野辺出雲守、 奥田仁義らが出迎え、宇治田原山口城へ	市辺、青谷、郷之口	山口城主 山口甚介秀康

穴山梅雪(武田から寝返る):家康一行から遅れ、土一揆に追われ、飯岡渡し場付近で自害。墓がある。

家康逃走路と周辺の史跡に行く

10月28日(金) 9:30～12:30 『ウォーキング』 約9km

三山木～日本最初外国蚕飼育跡～普賢寺(近衛基通墓、田宮の館、伊藤若冲屋敷跡)
～家康逃走路(宇頭城、普賢寺谷、多々羅)～同志社前

ウォーク場所・他	説明、注目点、関連事項
日本最初外国蚕飼育跡	養蚕は1～2Cに百済から伝わる。西暦100年前後、渡来人の奴理能美(ぬりのみ)がこの地で養蚕と絹生産。「古事記」仁徳天皇条:磐之媛が“三色に変わる虫”と記述。
近衛基通墓	平安末期～鎌倉前期、平清盛、後白河天皇らにより摂政・関白に任じられて政治を行う。何度も摂政・関白に任じられたり解任を繰り返す。普賢寺に隠棲し移り住む。
田宮の館	田宮氏先祖:南北朝時代、大和国葛下郡、万財新三郎友盛が後醍醐天皇の笠置山挙兵で活躍、宝剣を賜る。戦国時代、普賢寺に移り田宮姓に。横井小楠暗殺者匿う。
伊藤若冲屋敷跡	最初は狩野派、次に中国絵画の模写、実物(鶏を始めとする動物や植物)を写生、独自の世界を構築(墨絵、障壁画)、『動植綵絵』。一時期、公家谷に住んだという。
観音寺	白鳳:天武天皇勅願、義淵僧正が開基、天平:聖武天皇勅願、良弁僧正が五重塔など伽藍増築、十一面観音立像(国宝)安置、息長山普賢教法寺。竹送りは2月11日。
古民家	築200年の大和棟、家康が近辺の道を逃走、ビオ多々羅



- 9:30 集合、出発
- ① JR三山木
 - ② 日本最初蚕飼育跡
 - ③ 近衛基通の墓
 - ④ 伊藤若冲屋敷跡
 - ⑤ 宇頭城、普賢寺谷
 - ⑥ 観音寺
 - ⑦ 古民家
 - ⑧ JR同志社前
- 12:30頃

家康が逃げたルート

ウォーキングルート

- 平成29年伊賀越え関連予定
 - 3/26 話・演舞・お茶(古民家)
 - 4/2 星田の桜見と家康
- 逃走路ウォーク(4~6月)
 - ・四條畷~星田
 - ・河内磐船~倉治~津田
 - ・津田~交野山~穂谷
 (秋頃) 宇治田原方面

